

ひまわり障がい者相談支援事業所

小野寺 一恵 / 佐藤 広章

功 績 SDGSフォーラムから当在宅サポートグループの今後の方向性を検討、SWOT分析により”更なる幅広い対応の為、医療的ケア児へ介入する事”の方向性を見出し取組。加算取得や医療的ケア児への学校訪問という実績に繋げた功績。

推 薦 者 在宅部長 大友 悠平

推 薦 理 由 ひまわり障がい者相談支援事業所は東松島市・石巻市・女川町の相談事業の委託を請負っており非常に広域かつ幅広いケースの相談・対応を実施しております。事業の特性上、なかなか新しい事への取組は難しいものでしたが、在宅サポートグループをワンチームととらえ分析結果を効果のあるものへ方向性を出し、内部事業へ繋げ、新たな加算取得となった事柄は、理念やスローガンを念頭にした取組であった為、理事長賞に値し、その候補として推薦いたします。

内 容

ひまわり障がい者相談支援事業は市町村の委託事業が主である為、普段、法人内の他事業と比較し、収益に直結したり運営に関して注目される機会は少なかった。しかしながら地域の障がいを持つ方々にはなくてはならない事業であり、介入が一筋縄ではいかない非常に困難なケースも多く、地域の障害福祉を支えている事業である。

昨年の健育会のSDGSフォーラムに障がい者相談支援事業所から佐藤がメンバーとして参加。継続的な事業運営について障がい相談員の目線からディスカッションや分析を行った。ひまわりの特性を理解し、理念に基づいた地域貢献がどのように出来るのかを、委託事業としても公平な立場で検討した結果、一つの案に”更なる幅広い対応の為、医療的ケア児へ介入する事”が挙げた。

即座に佐藤は障がい者相談支援事業所へ持ち帰り、取組を展開。また、上司である主任の小野寺も加わり、当在宅サポートグループの強みである訪問看護ステーションの中学校への医療的ケア児介入の事例を事業所内で共有した。相談員全員があらためて”ひまわり”の強みを理解することに繋がった。その取組の中でタイミングよく行政から佐藤に医療的ケア児の学童利用について相談があった。早速、既にひまわり訪問看護ステーションで介入している訪問事例等を紹介したところ、R5年4月より行政の委託を受け、ひまわり訪問看護ステーションの利用に繋がった。

小野寺は組織・個人として成果につながる事に取組んだ。医療的ケア児コーディネーター養成研修会に参加し、R5年4月に要医療児者支援体制加算の届出を実施し、体制強化に加え事業所の収益にも繋がった。これらの取組はスピーディに動いた事により即座に実績に繋がりと、全体にも”ひまわり”の新たな強みが浸透し、ワンチームで取り組むことのできた事例である。